

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 「強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎及び類縁疾患の医療水準ならびに患者 QOL 向上に資する
 大規模多施設研究班」分担研究報告書

脊椎関節炎診療に用いる用語の統一並びに用語集作成に関する研究

研究代表者：富田 哲也(森ノ宮医療大学 大学院保健医療学研究科)
 研究分担者：中島 亜矢子(三重大学 リウマチ膠原病内科学)
 山村 昌弘(岡山済生会総合病院 内科)
 大久保 ゆかり(東京医科大学 皮膚科学)
 岡本 奈美(大阪医科薬科大学 小児科学)
 小田 良(京都府立医科大学 整形外科)
 亀田 秀人(東邦大学医学部 内科学講座膠原病学分野)
 岸本 暢将(杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科)
 辻 成佳(日本生命病院 リハビリテーション科)
 中島 康晴(九州大学大学院 医学研究院整形外科)
 松井 聖(兵庫医科大学 内科学リウマチ・膠原病科)
 森 雅亮(東京医科歯科大学 生涯難病免疫講座)
 森田 明理(名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学)
 研究協力者：清水 智弘(北海道大学 整形外科)
 首藤 敏秀(泉和会千代田病院 整形外科)
 田村 誠朗(兵庫医科大学 内科学リウマチ・膠原病科)
 野田 健太郎(桑名市総合医療センター 膠原病リウマチ内科)

研究要旨：強直性脊椎炎に代表される脊椎関節炎(spondyloarthritis: SpA)は、リウマトイド因子や抗環状シトルリン化ペプチド(CCP)抗体を欠く体軸関節や末梢関節を侵す原因不明の疾患である。その疾患の認知度は必ずしも高くなく、また診断・治療にも難渋する。わが国では2020年にIL-17阻害薬である生物学的製剤のセクキヌマブがnon-radiographic spodyloarthritis、に適応になった。しかし、この和訳を議論したことを契機に、脊椎関節炎診療領域の用語の和訳が一定していないこと、定義を明確にすべき用語のあることなどが明らかになった。

前回の研究班と本研究班の昨年度の研究で、『脊椎関節炎診療の手引き2020』、欧州リウマチ学会の8つのRecommendationsなどから抽出された400を超える脊椎関節炎診療に必要な用語の中から260語程度の和訳と40語程度の定義を検討した。これを受け、今年度は、①日本脊椎関節炎学会ホームページに重要な用語を抽出して用語集を掲載すること、②解説が必要な、定義を明らかにすべき用語について、同ホームページに掲載可能な解説集を作成すること、③同ホームページに掲載されている国際脊椎関節炎評価会(Assessment of Spondyloarthritis International Society, ASAS)のスライド集の和訳を本研究班で確定したものに統一し整備すること、④新規に出版された「掌蹠膿疱症性骨関節炎の手引き」をもとに、診療に必要な用語を抽出し耳鼻咽喉科、口腔外科領域で共通した和訳や定義を作成することなどをおこなった。①②③については、年度内にほぼ終了予定である。今後は、さらに和訳用語について他学会との調整等も行い、脊椎関節炎診療用語集を充実させていく予定である。

A. 研究目的

強直性脊椎炎(ankylosing spondylitis: AS)をはじめとする脊椎関節炎(spondyloarthritis: SpA)は、リウマトイド因子陰性の体軸関節と末梢関節の障害を特徴とする疾患群の総称で、強直性脊椎炎の他、乾癬性関節炎、炎症性腸疾患

に伴う脊椎関節炎、反応性関節炎などを包括する。HLA-B27 保有率の高い国では、脊椎関節炎は関節リウマチに次いで多い関節炎疾患で広く認識されているが、わが国では HLA-B27 の保有率が低く、広く認識されているとは言いがたい状況である。

近年、TNF 阻害薬、IL-17 阻害薬などの生物学的製剤の脊椎関節炎への適応拡大とともに、脊椎関節炎に対する疾患認識が高まり、同時に脊椎関節炎領域の診療に必要な解剖・症状・臨床所見・画像所見などに関する英文用語の和訳統一がなされていないことも明らかとなった。前回の班研究に引き続く今回の班研究では昨年度、脊椎関節炎診療に関わる用語の和訳統一と一部の用語について知っておくべき意味や定義を明文化し、脊椎関節炎疾患診療に専門ではない医療者にも役立つように、日本脊椎関節炎学会 (Japan Spondyloarthritis Society, JSAS) のホームページに掲載することを目的とした。今年度はさらに、『掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き 2022』から診療に必要な用語の和訳と定義を検討することも目的とした。

B. 研究方法

1) 解説が必要な、定義を明らかにすべき用語集の作成

用語解説や定義が必要な用語を、図等も用いて解説し、JSASホームページに掲載できる体裁を整える。

2) JSASホームページに掲載されているスライド集の用語統一

JSAS)ホームページにある11のスライド集のそれぞれのスライドについて、国際脊椎関節炎評価会 (Assessment of Spondyloarthritis International Society, ASAS) のスライド集に戻り、本研究班で整備した和訳に統一し整備する。

3) 掌蹠膿疱症性骨関節炎診療に必要な用語和訳の確定と解説が必要な用語への対応

新規に出版された「掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き 2022」をもとに、診療に必要な用語を抽出し皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、口腔外科領域で共通した和訳や定義を作成すること

ワーキンググループ毎に検討会を開催して対応した。

(倫理面への配慮)

本研究は、患者個人情報を取り扱うものではないため、倫理面への配慮は要しない。

C. 研究結果

1) 解説が必要な、定義を明らかにすべき用語として 20 の用語を抽出していたが、「back pain、low back pain、inflammatory back pain」、「axial joints と axial spondylitis」、「backfill」、「apophyses と epiphyses」、

「fascia、planter fascia と heel pain」、「sausage digit と sausage-like finger」6 種の用語について、画像、イラストも用いた解説スライドを作成した (図 1a、b)。

2) JSAS ホームページにある ASAS、臨床症状、診断、疫学、若年性脊椎関節炎、仙腸関節 MRI、脊椎 MRI、転帰、病因、治療、単純 XP 所見 12 領域のスライド計 453 枚を、ASAS のスライドを元に、今研究班で作成した和訳と用語統一できているかを確認した。現在の ASAS のホームページには、更新された計 558 枚のスライドが掲載されており、特に MR 所見、治療が改変されている。今後既掲載の和訳スライドを修正し、JSAS ホームページに掲載する。

3) 「掌蹠膿疱症性骨関節炎 診療の手引き 2022」からの用語抽出、和訳作成、定義について

用語集から、共通 167 語、口腔外科領域 23 語、耳鼻科領域 16 語、皮膚科領域 84 語、計 290 語を抽出した。用途の定義の要否については、他領域の臨床医にとってなじみのない用語については定義を明確にすることは必要、特に歯科口腔外科領域の用語、例えば「歯周病と歯周炎」「前胸壁と前胸部の違い」などについては解説が必要との結論に至った。各領域の用語集を参考にするが、歯科口腔外科領域では海外の用語集が複数あることも明らかとなった。

D. 考察

強直性脊椎炎は遺伝的背景の違いから、わが国ではその患者数は少なく、認知度が低いものの、乾癬や炎症性腸疾患に関連する脊椎関節炎は増加しており、医療現場における疾患の理解とその専門医の育成が進捗することは喫緊の課題である。

今回、複数の執筆者による『脊椎関節炎診療の手引き 2020』の発刊により和訳が統一されていないことが判明し、また、非専門医には用語の定義などが明確でないものも少なくないことも判明したことをきっかけに、用語統一の必要性が明らかになり、本研究が進んだ。その結果、和訳統一用語集の作成、定義や説明が必要な用語集の作成に至った。そして、これらの用語を、教育的な見識も兼ね、誰でもアクセスできるような状態に置くことの重要性が認識され、JSAS のホームページに掲載するための準備も進んでいる。皮膚科、リウマチ科、口腔外科、耳鼻科など多数の領域がかかわるが専門家以外にはあまり認知されていない掌蹠膿疱症性骨関節炎もその治療の手引き 2022 も刊行され、

資料 6

その特異領域においても、共通の用語を共通の定義で用いることの重要性が明らかになったところである。今後も、引き続き検討を重ね、掌蹠膿疱症性骨関節炎を含む脊椎関節炎のより良い治療に結びつく用語集の作成に努めていく。

E. 結論

脊椎関節炎診療にかかわる用語の和訳統一と定義の明文化を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし